６　南薩地域の特性を生かした稼げる花き産地の育成

大塚地区の花き産地の維持・発展

成果の要約

１　農薬散布装置の縦ノズルの改良による病害虫対策に取り組み，農薬量の削減，散布ムラが少なく，ハダニ類の発生を軽減できた。また，自走式・手動式散布装置は，手散布に比べ散布時間を大幅に削減することができた。
２　若手生産者組織周年菊研究会において，資質向上の取組み支援や新たに花育過活動を行った。また，地域外の仲間づくりの支援を行った。
３　女性農業者組織 Qooki が主体的に外国人技能実習生や特定技能の生活改善支援に取り組んだ。

１　対象

（１）枕崎市大塚花き生産者協会 20 戸
（２）枕崎市大塚周年菊研究会４戸（６名）
（若手生産者組織）
（３）Qooki４戸（６名）
（女性農業者組織）

２　課題を取り上げた理由

（１）枕崎市大塚地区は全国的にも規模の大きいキク農家が集まった団地であり，キクの周年栽培が行われている。近年，低コストで効率的な病害虫防除や夏場の高温対策（奇形花発生・開花遅延軽減）を検討する必要がある。
（２）大塚地区の生産者数は高齢化や後継者不足等により減少傾向にある。産地の維持・発展には若手生産者の育成が重要である。
（３）大塚地区のキク生産者では，外国人実習生や特定技能を数多く受け入れており，地域の生活を支援する一貫として，交通ルールやマナーを関する知識を深める機会を設ける必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１）実証ほの実施
ア　農薬散布装置の検討（写真１～２）
秋輪ギク 11 月出し,12 月出しにおいて，メーカーと連携して開発した自走式散布装置や手動式散布装置を検討した結果，それぞれ縦ノズル改良は慣行のナイアガラに比べ農薬散布量（自走式：約 26%，手動式：約 35%）を削減でき，散布ムラが少なかった。また，自走式散布装置では，害虫のハダニ類被害の発生を大幅に軽減できた。また，これらの散布装置の散布時間は，手散布に比べ 80%以上削減できた。

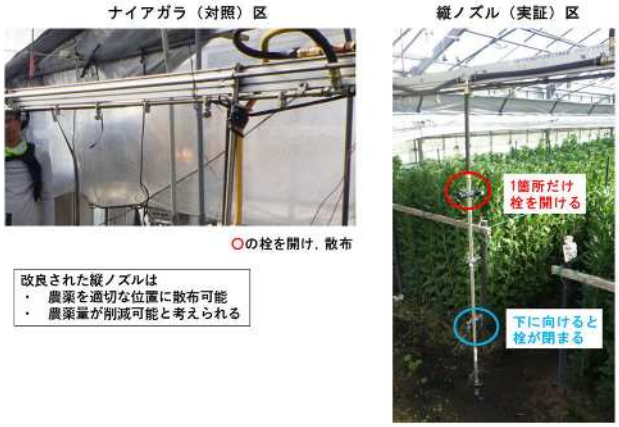


写真１　自走式散布装置の実証内容



写真２　手動式散布装置の実演

イ　その他
高温対策として，遮熱資材やバイオステイミュラントの検討で大幅に奇形花の発生軽減できることを確認した。
病害虫対策として，新農薬試験を実施したり，赤色ＬＥＤによるアザミウマ類対策

の取組みで効果を検証中である。
秋輪ギクでは，芽無し性があり低温開花で選抜された系統等の品種化検討を行った。

（２）若手生産者組織の活動支援
ア　「周年菊研究会」について
「周年菊研究会」は大塚地区の若手生産者４戸６名で構成される組織で，毎月定例会を開催し，室内検討と現地検討を実施している（写真３）。課題解決学習による若手生産者の資質向上に取り組んでいる。
他，立神小の花育，法人や他産地のキク生産者との情報交換を図った。



写真３　土壌肥料の検討（７月）

イ　立神小の花育（写真４）
大枕崎市立立神小学校にて，小学５年生を対象とした，キクの収穫体験が行われた。花育活動は，枕崎市大塚地区の若手キク生産者が主体となって実施しており，今年度の体験では，12 月出しにおいて小学生がキクの植えつけ，芽つみ，収穫方法について，実際の作業を通して学んだ。



写真４　キクの収穫体験

アンケート結果から花育体験をとおして，花に興味をもつようになった（39%），気持ちがいやされた（36%），家でも花を飾ってみようと思った（15%）等の声を聞き，体験した小学生の心にたくさんの良い影響を与えてくれる取組となった。
他，フラワーアレンジ体験も３月に実施した。

ウ　他産地のキク生産者との仲間づくり支援
「周年菊研究会」では，毎年他産地のキク生産者との交流を図っている。地域外の仲間づくり支援として，農政普及課がコーディネートし，今年度は愛知県渥美・豊川地域のキク生産者と交流した。キクの高温対策や病害虫対策について活発に意見を交換した（写真５）。



写真５　愛知県の渥美地域での視察

（３）キク女性組織 Qooki の活動支援
外国人技能実習生を対象とした研修会を開催し，実習生36人を含む計50人が参加した。外国人実習生は，自転車安全教室で自転車に乗る時のルール（講師：枕崎警察署），枕崎市のハザードマップや避難場所（講師：枕崎市）について学んだ（写真６）。



写真６　交通安全研修会

４　今後の課題

（１）実証技術の施設花き生産者への波及
（２）継続した活動支援による若手生産者の資質向上支援
（３）女性農業者が主体となった活動支援

５　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇渡辺，中原